

事案名	横須賀市（衣笠山）の事案（神奈川県 14 - 7 - 1）
フォローアップ調査資料	・証言（元横須賀海軍特別陸戦隊化兵隊員）〔3〕
追加資料	<ul style="list-style-type: none"> ・証言（元横須賀海軍特別陸戦隊化兵隊員）〔A1〕 ・「横須賀海軍軍需部引渡目録」1 / 3〔A2〕 ・『平成16年度国内における旧軍毒ガス弾等に係る情報収集及び取りまとめ業務報告書』〔A3〕 ・「国内における毒ガス弾等に関する総合調査検討会（第8回）」資料8〔A4〕
平成15年度フォローアップ調査報告書の要約	<p>終戦時に、横須賀の特別陸戦隊が保有するイペリット缶を山中に埋設したとの証言がある。</p> <p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元特別陸戦隊員の証言として「昭和20年4月に山口県の防府海軍通信学校に72期生（200名）として入校した。沖縄戦の敗色から2ヶ月後には卒業ということになり、横須賀鎮守府に移動になった。横須賀では、特別陸戦隊（化兵隊）が新たに組織（少尉以下30名程度）され、横須賀の山中にバラックの兵舎を仮設し終戦まで駐屯した。駐屯場所は衣笠駅から30分ほど歩いた山中で、特別陸戦隊の任務（化兵隊の20名）は、アメリカ軍が横須賀に上陸してくるという想定で、毒ガス訓練を毎日行った。訓練はガスマスクや防護服を装備し、敵上陸地点を想定して噴霧器でイペリットを実際に撒布するという危険なものであった。演習場所は、兵舎から30分くらい歩いた川原（一面草原で用水路があった）で行った。訓練後、さらし粉で除染したが何人かのものが糜爛症状になった」と記載されている〔3〕。 <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元特別陸戦隊員の証言として、「終戦から2ヶ月ほど横須賀に駐屯したが、8月20日頃に、残留していた20名ほどで部隊にあったイペリット缶（40～50kgの小型のドラム缶）4～5本を山中に埋設投棄した。ドラム缶は山中に深さ2mほどの穴を掘って埋めた。今まで、被害があったという話を聞いていないので米軍が掘り上げて持っていったのかもしれない」と記載されている〔3〕。

<p>新たな情報</p>	<p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元特別陸戦隊員の証言によればイペリット缶埋設場所は、当時旧軍が仮設したバラックの兵舎の横である〔A 1〕。 <p>その他情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元特別陸戦隊員は、横須賀の衣笠駅から30分ほど歩いた衣笠山の山中にバラックの兵舎を仮設し終戦まで駐屯したと証言している〔A 1〕。 ・元特別陸戦隊員は、毒ガス訓練は終戦の前日まで行った。また、就寝時に突然、催涙剤やくしゃみ剤の手投弾が投げ込まれて、防毒面を着ける訓練もやらされたと証言している〔A 1〕。 ・終戦時、横須賀海軍軍需部の衣笠公園下倉庫に「3号除毒剤」が200缶存在した〔A 2〕。 ・衣笠山には、公園が存在している〔A 3〕。 ・平成16年11月に環境省が実施した16検体の地下水調査の結果、毒ガス成分は検出されなかった〔A 4〕。
--------------	---

事案名	横須賀市（横須賀海軍軍需部）の事案（神奈川県 14 - 7 - 2）
フォローアップ調査資料	・「化学戦資材ノ件回答」昭和21年3月9日〔1〕
追加資料	<ul style="list-style-type: none"> ・『乱世を生き抜いた少年たち』〔A1〕 ・『横須賀市史』〔A2〕 ・「横須賀海軍軍需部引渡目録」3 / 3〔A3〕 ・「本市所在旧軍用財産転用概況」平成14年10月31日現在〔A4〕
平成15年度フォローアップ調査報告書の要約	<p>神奈川県横須賀市には、終戦時に、横須賀海軍軍需部に塩化アセトフェノン（催涙剤）とくしゃみ剤の型薬缶が保有されていた。</p> <p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和20年8月1日現在、横須賀海軍軍需部には塩化アセトフェノンが52.5t存在していた〔1〕。 ・終戦時に、横須賀海軍軍需部にはくしゃみ剤の型薬缶が約30,000個貯蔵されていた〔1〕。 <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横須賀海軍軍需部に保管されていた約30,000個のくしゃみ性ガスの型薬缶は、昭和20年9月2日以前に海中投棄されたものと推定される〔1〕。
新たな情報	<p>その他情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横須賀海軍軍需部は、長浦・比与宇・田ノ浦、郷戸・猪・日向地区、吾妻山・箱崎の本部地区の他、久里浜倉庫、池子倉庫・久木倉庫、大船倉庫、柴燃料倉庫、瀬谷火薬庫、三浦半島の分散倉庫等に分かれていた〔A1〕〔A2〕。 ・横須賀海軍軍需部の比与宇地区には、第1化学兵器格納所、第2化学兵器格納所、第9火工兵器庫（除毒剤）が存在していた〔A3〕。 <p>現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横須賀海軍軍需部の田ノ浦地区には、瓦斯兵器格納所が2ヶ所及び瓦斯容器格納所が存在していた〔A3〕。 ・田浦・長浦地区の軍需部跡地は、現在、自衛隊及び官公庁施設、民間企業、住宅、教育機関等になっている〔A1〕〔A4〕。 ・横須賀海軍軍需部の比与宇火薬庫は、明治22年11月以前に設置され、現在は海上自衛隊が比与宇弾薬庫として使用している〔A1〕。 ・横須賀海軍軍需部の猪火薬庫は戦後米軍が使用している〔A1〕。

事案名	横須賀市（第2海軍航空廠）の事案（神奈川県14-7-3）
フォローアップ調査資料	・「各航空廠引渡目録」2/2〔2〕
追加資料	・「本市所在旧軍用財産転用概況」平成14年10月31日現在〔A1〕 ・「第2海軍航空廠引渡目録」〔A2〕
平成15年度フォローアップ調査報告書の要約	生産・保有情報 ・終戦時に、横須賀の第2海軍航空廠には、60kg爆弾（通常、陸用、1号、2号、3号、21号）・70kg爆弾（6号）・30kg（27号）の総計で4,801発存在していた〔2〕。
新たな情報	その他情報 ・旧軍用財産転用概況によると、第2海軍航空廠の国有財産名で転用された財産は、現在公園及び住宅敷地、市道として利用されている〔A1〕。 ・第2海軍航空廠横須賀補給工場のうち市内に該当する施設は、長浦（行基）、田浦、日向に存在しており、市外には、根岸、鎌倉、逗子、葉山等に存在していた〔A2〕。

事案名	横須賀市内の事案（神奈川県 14 - 7 - 4）
フォローアップ調査資料	<ul style="list-style-type: none"> ・証言（元厚生省第2復員局員）〔6〕 ・「終戦時に於ける横須賀鎮守府関係参考資料」昭和22年〔7〕 ・『日本海軍史』第11巻〔8〕
追加資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「終戦時に於ける横須賀鎮守府関係参考資料」昭和22年〔A1〕 ・『日本海軍史』第11巻〔A2〕 ・『神奈川の米軍基地』平成13年2月〔A3〕 ・「本市所在旧軍用財産転用概況」平成14年10月31日現在〔A4〕
平成15年度フォローアップ調査報告書の要約	<p>海軍の毒ガス戦の教育を行っていた館山海軍砲術学校が、昭和18年に横須賀海軍砲術学校に併合されたのに伴い、毒ガス戦の教育も横須賀海軍砲術学校の所管となった。また、横須賀市の砲術学校で不審なガラス筒を目撃したという証言がある。</p> <p>その他情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元厚生省第2復員局員の証言として、「戦後、横須賀市の旧砲術学校に行ったときに防空壕の中に100から200のアルミのケースが置いてあり、ケースの中には長さ20cm・直径4cmの大きさのガラス筒が3本入っており、各々着色した液体が入っていた。液体の色は、薄い水色・黄色等であり、綿に包まれてアルミケース内に入っていた。その後、ケースがどうなったかは知らない」と記載されている〔6〕。 ・横須賀市には、横須賀海軍通信学校と海軍水雷学校久里浜分校が存在し〔7〕、また、横須賀海軍工作学校も存在していた〔8〕。なお、海軍砲術学校は横須賀市内に存在していた〔7〕。
新たな情報	<p>その他情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元厚生省第2復員局員の証言にある「横須賀市の旧砲術学校」は久里浜には存在していない。海軍砲術学校は、横須賀市楠ヶ浦及び横須賀市長井に存在していた〔A1〕〔A2〕。 ・横須賀海軍砲術学校の存在していた楠ヶ浦〔A1〕は、現在、米軍の横須賀海軍施設になっている〔A3〕。また、横須賀海軍砲術学校の長井分校の跡地は、現在、学校施設、公社、その他民間施設になっている〔A4〕。

事案名	横須賀市（横須賀港）の事案（神奈川県 14 - 7 - 5）
フォローアップ調査資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「旧軍ガス弾等の全国調査結果報告（案）」資料 3 の 2〔4〕 ・「毒ガス弾等調査資料」昭和 47 年 6 月 5 日〔5〕
平成 15 年度フォローアップ調査報告書の要約	<p>横須賀港から引き揚げた 60kg 爆弾を工場で解体中、作業員 5 名が被災した。</p> <p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和 29 年 2 月 21 日に、横須賀港でイペリット弾 1 発が発見された〔4〕。 ・昭和 29 年 2 月 21 日に、横須賀港で爆発物件等引揚業者が引き揚げ搬入した 126 個の 60kg 爆弾を解体中、1 発の爆弾から液体が漏洩して異臭を感じ、作業員 5 名が被災した。調査の結果、イペリットであることが判明し、海上警備隊（横須賀）に処分を依頼した。その後、防衛庁がこの処理を請け負ったというが、防衛庁は本件に関し記録はないとする記載が見られる。また、同引揚業者によれば、海底には爆弾が 500 個位あると報告している〔5〕。 ・昭和 29 年 3 月 24 日から 31 日にかけて、横須賀港の掃海作業でイペリットガス弾が発見されたが、数量は「不明」と記述されている〔4〕。 ・昭和 29 年 7 月 7 日から 8 月 6 日にかけて、横須賀港の掃海作業でイペリットガス弾 306 発が発見された〔4〕。